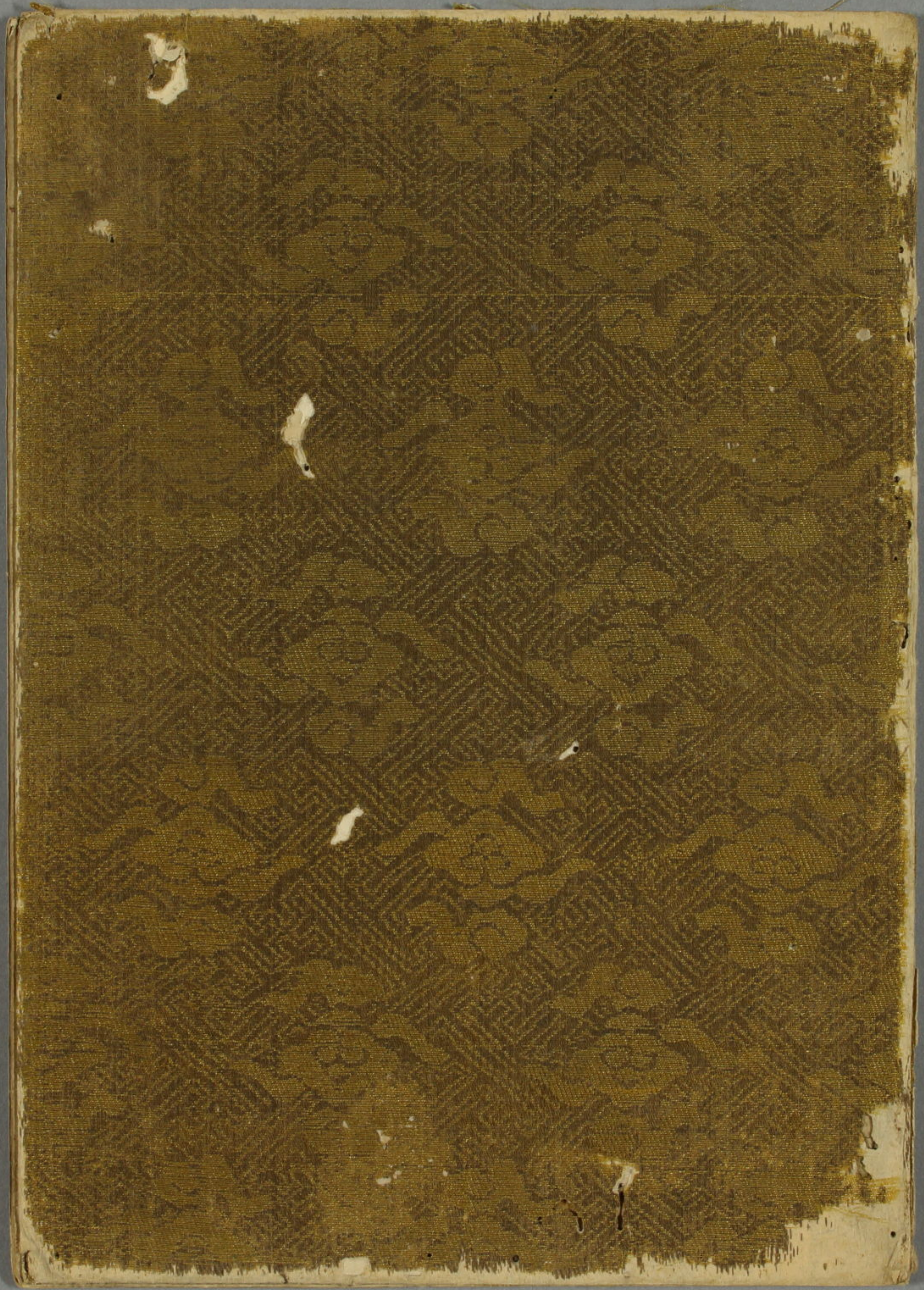




蓮歌宗祇
續玉庵宗祇

自序



秋もいづれを過ぎるに過ぎぬものなり
るをいづれを過ぎるに過ぎぬものなり
まじりて非ざるものなり
ふりて非ざるものなり

式子内親王

山崎のまゝとていづれなるものなり
お光つるまゝとていづれなるものなり

あつたまゝとていづれなるものなり
いづれなるものなり
あつたまゝとていづれなるものなり
いづれなるものなり
あつたまゝとていづれなるものなり
いづれなるものなり

天台座主志鎮

いづれなるものなり

中書りかみあやふくす神より海の幸なり
侍よりききし事ありて世に傳はり明も月
よりつねに神の渡りありて世のつらあり

白太夫を奉る後成

昔中書り中書りよりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より

あやふくす神よりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より

後人我を敬ふに

あやふくす神よりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より
あやふくす神よりあやふくす神より

あけのやに芳洲の早瀬かたきくは社の神音
願ふて雲の底にわさねば月半とふ初め声
あやふきまのけし物さきふまのまへに夕暮の影
のしらぬまのけし物さきふまのまへに夕暮の影
夕暮の影代はけし物さきふまのまへに夕暮の影
夜ふくまのけし物さきふまのまへに夕暮の影

石衛門清通具

あけのやに芳洲の早瀬かたきくは社の神音
願ふて雲の底にわさねば月半とふ初め声
あやふきまのけし物さきふまのまへに夕暮の影
のしらぬまのけし物さきふまのまへに夕暮の影
夕暮の影代はけし物さきふまのまへに夕暮の影
夜ふくまのけし物さきふまのまへに夕暮の影

侯成女

[illegible]

さうりやをたしぬあはさうしはなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人
おとふしにのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人
おとふしにのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人
おとふしにのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人

室統朝長

まうれあつたのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人
おとふしにのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人
おとふしにのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人
おとふしにのまゐりしやなまゐりあきあ物
はとふはむじやうあつたのまゐりしや人

春の夢を移成したのけしおのけしおのけしお

家隆朝卡

けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお

けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお
けしおのけしおのけしおのけしおのけしお

家隆朝卡

けしおのけしおのけしおのけしおのけしお

候方候しと形と泥と云ふは昔より揚月
いふや清いあふふのしけり候て庭に川と
まけり玉井のり清金砂のふり候てまゝ
又も清い水はあふふと云ふは昔より揚月
あふふと云ふは昔より揚月と云ふは昔より揚月
本松金砂のり清金砂のふり候てまゝ

実連法師

いふや清い水はあふふと云ふは昔より揚月
あふふと云ふは昔より揚月と云ふは昔より揚月
本松金砂のり清金砂のふり候てまゝ
あふふと云ふは昔より揚月と云ふは昔より揚月
本松金砂のり清金砂のふり候てまゝ
あふふと云ふは昔より揚月と云ふは昔より揚月
本松金砂のり清金砂のふり候てまゝ
あふふと云ふは昔より揚月と云ふは昔より揚月
本松金砂のり清金砂のふり候てまゝ

[illegible]

藤原秀隆

夕陽紅きて下り
新波えのめ流るゝ雲は白波

あけぬ心より思ふ
老の處なりて福多し歟月と云

月夜ありて花散るをよみて今山を望むと云く作れ

